

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都府】

学校名【京丹波町立瑞穂中学校】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	京丹波町立瑞穂中学校 全校生徒（男子35名・女子43名、計78名） 保護者等 10名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（学習講演会・人権講演会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・パラリンピックについて学び、諦めないことの大切さや、目標に向かって挑戦することの尊さを感じ取る。 ・「障害の有無にかかわらず共にいきいきと暮らしやすい社会」すなわち共生社会の構築に向けて考える機会とする。
5 取組内容	(1) 講演会の実施 日時 平成30年11月9日（金） 演題 「思いを貫き、夢を実現する！」 講師 神保 康広 氏 ・車椅子バスケットボール パラリンピック元日本代表（4大会出場） 講演内容 車椅子バスケットボールと出会い、引きこもりの生活から抜け出し、パラリンピック日本代表選手、そしてアメリカでプロ選手とされるまでのこと、そしてこれからの事を力強く語っていただいた。 思いを貫くために、「“楽しい”を見つけ、一生懸命に楽しむこと」、「知識や経験をたくさん積むこと」が必要であること、そして、楽しいを見つけて、やってみることで半分成功であり、思いを貫きやってみれば夢や目標に近づくはずである、と語られた。 また、その後、日本初となる車椅子バスケットボールのキャンプや海外での車椅子バスケットボールの普及や指導に尽力されるなど、パラスポーツを通して世界



と繋がっておられることをお話しいただいた。

また、車椅子バスケットボールやパラスポーツの意義について話を聴くことができ、生徒の質問にも丁寧に答えていただいた。



6 主な成果

生徒は神保氏の前向きで、ポジティブな考え方や生き方に触れ、神保氏の生き方に深く共感した。

講演を通して、障害についての理解やパラスポーツについてだけでなく、友達のこと、障がいの有無にかかわらず人としての生き方について深く考えることができた。

(生徒の感想から抜粋)

・神保さんの講演を聴いて、障害はみんなにあるものなのではないかと思いました。私もコンタクトレンズを外したら景色や文字・物などいろいろなものがぼやけて見えます。けれど、それはコンタクトレンズをはめれば障害でなくなるから大したことではありません。だから、「障害」というものは何か道具を使えば、人の手を借りれば障害でなくなる、という神保さんの話に納得したし、そのことに気づかされました。「障害」というものは周りの人の接し方や道具を使うことによって障害でなくなる。だから、「障害がある」ことは別に特別なことでもないし、何でもないことなのではないかと思いました。

・私は車椅子を使っている人を見たら「可哀想やな。」と思っていた。でも、神保さんの生き方について知ったとき、自分が偏見を持っていることに気付いた。私は今まで、障がいがある方と接する時は変に気を使ったりしていた。でも、神保さんの話を聞いたら、神保さんの周りの人のような接し方をしていけばいいんだとわかった。「なぜ、車椅子なの？」とか聞くのは本当に失礼なことだと思っていたが、今回の講演でそんなことはないんだ、とわかった。今までの自分と今の自分を比べると、大きな心の変化に気付いた。実際に障がいのある方にしか分からない気持ちについて深く考えることができた。障がいのある方への見方も変わり、私の心を変化させる時間だった。

・また、私は「頭だけで出来るか、出来ないかを考えていてもそれでは何もできない。」という話も印象に残っています。確かにそうだな、と思いました。私は、実際「やってみる」ということより、「頭で考える」ということを先にしてしまいます。出来るか、出来ないかを頭だけで考えて、最初から決めつけてしまいます。だから、この話を聴いて、これからは「やってみる」ということを徹底して実践していこうと強く思いました。

・障がいがあっても、パラスポーツなどがあることで、どんな人でも生活をより楽しくできることを知り、もっとパラスポーツを広めて、パラスポーツができる場所が増えたらいいと思いました。障がいがなくとも車椅子バスケットボールができる機会があることを知って、障がいがある人もない人もみんなが同じ条件で楽しくスポーツができることは素晴らしいと思います。そして、障がいがある人が、障がい

	<p>のことを忘れるような環境ができればと思います。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>(1) 講演会の一週間前に、神保氏をモデルにした演劇を鑑賞し、生徒の心情に訴え、理解を深めた。</p> <p>(2) チラシを作成し、保護者や校区内への広報活動を行った。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) 学校行事と講師との、日程の調整が難しい。かなり早期から連携が必要である。</p> <p>(2) 講師や指導者の依頼について、来ていただける人材の選定が難しい。(日程・講師料等)</p> <p>(3) 単発的な講演会だけで終わらず、継続的な取組が必要である。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>一昨年度はオリンピックによる講演会並びにホッケー教室を実施し、昨年度は国際理解やマナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成に関しての講演会を持った。今年度はパラリンピックに関する講演会を行ったが、来年度以降は今年度までの成果を活かし、体験的な学習など、より発展的な内容になるように事業を実施する。</p>

